

千葉市支えあい活動団体連絡会設立総会議事録

日 時:2016年9月12日(月)13:10～16:00

場 所:千葉市市民会館3階特別会議室

<総会内容>

1部 総会 13:30～14:00

①会則について②幹事団体選出について③冊子づくりについて

2部 各団体紹介 14:00～14:45

休憩 14:45～14:50

3部 講演 14:50～15:30

「千葉市地域包括ケアについて」

千葉市地域包括ケア推進課 課長 富田 薫氏

15:30～16:00 質疑・応答(意見交換)

1部 総会

【主催者挨拶】

- ◇ 介護保険以前から、多くの助け合い団体が活動しており、千葉県全体では千葉県たすけあい協議会が設立された。
- ◇ 2015年介護保険制度の改正による、総合事業への移行などの取り組みが進められているが、千葉市とのパイプがなかったことから、千葉市でも助け合い団体のネットワークが必要と感じた。そこで、昨年度は計3回、千葉市内の千葉県たすけあい協議会に所属する団体があつまり、市役所と直接話し合う場を持った。そこで、千葉市の担当所管では、ささえあい団体の実情をほとんど把握していないことが浮き彫りとなり、市内の団体のネットワーク化が喫緊の課題であることを改めて確認した。
- ◇ このような経緯で、本日、連絡会を設立することとなった。

①【会則について】

◇ 会則が了承された。

②【幹事団体について】

◇ 本会は、代表を置かずに、幹事団体を置くこととしている。当面は、若葉区の「てくてく」と花見川区の「こんにちは」で担うこととしているが、もう一つ、美浜区でも一団体、幹事団体を募集したい。

③【(活動計画)冊子作りについて】

◇ 必要とする利用者が手に取って見られるように、分かりやすい、支え合い・たすけあい活動団体紹介の冊子を作成したい。

2部 各団体紹介

【自己アピール:花見川区】

(NPO法人 たすけあいこんにちは)

- ◇ 新検見川の駅のそばに事務所がある。30年ほど前から、有償ボランティアを実施している。
- ◇ 介護保険では対応できない助け合いのほか、サロンを毎週開催している。水曜日は認知症カフェとなっている。

(NPO法人 まごころサービス千葉)

- ◇ 介護保険制度開始とともにNPO 法人化した。
- ◇ 制度事業の割合が多くなってしまい、助け合い活動がなかなかできていない。地域のママなどを巻き込んで活動したいと考えている。

【自己アピール:美浜区】

(NPO法人 たすけあいサポートアイアイ)

- ◇ 階段昇降が特徴的で、それに付随して、福祉有償運送を行っている。

- ◇ 昨年度の階段昇降の依頼件数が300人を超えており、これ以上の対応は難しくなっている。ほかの区にも階段昇降を行う団体が生まれることを期待している。

(NPO法人 カフェバルコニー)

- ◇ 障害者の地域支援を行っている。就労継続B型事業を行っている。
- ◇ 障害者が地域の住民として、何か取り組めるようなことを目指している。

(NPO法人 福祉の街美浜をつくる会)

- ◇ 通院解除やゴミ捨てなど、ほかの団体と似た活動を行っている。団地では、ゴミ捨てができない人がかなり増えている。
- ◇ 見守りとして、電話による安否確認を行っている。
- ◇ まちかど談話室やサロンを行っている。
- ◇ 事務委任契約もニーズがある。
- ◇ 福祉有償運送もやっているが、事務的な煩雑さが課題である。
- ◇ ボランティアの募集ということで、イベントを行っている。今年は、高洲コミュニティセンターで10月10日に実施する。

(磯辺3 丁目西送迎ボランティアグループ)

- ◇ 町内全体に対して、原則無料、もしくは低料金で送迎ボランティアを行っている。
- ◇ 送迎ボランティアは、事故があると大変だということで、なかなか活動が行われていない。なんとか増やしていきたい。

(NPO 法人 市民後見センター すまいる)

- ◇ 東京大学の市民後見人養成講座の卒業生が集まった団体である。
- ◇ 現在、19万人が後見制度を利用しているが、認知症予備軍は400万人以上である。
- ◇ 市民後見人は、成年後見の中でも数%しかない。
- ◇ 利用者が増えない中で、専門職後見人は、供給過剰の状況となっている。
- ◇ 単に後見人になることを目指しているのではなく、相談や説明会などに力を入れている。地域で信頼感が醸成され、助け合いが行われれば、ある意味後見人はいらなくなるかもしれない。

(ささえあいまさご)

- ◇ 40年前に入居した人が、後期高齢者になっている。
- ◇ 一人暮らし高齢者が非常に増えている。
- ◇ 今から4年前に、社協真砂地区部会が中心になって立ち上げた。やってみると、無償では使いきくいということで、1時間500円ということで、有償ボランティアで様々なささえあい活動を行っている。

- ◇ 昨年度の依頼実績は、400人以上だった。事務量が多いのが課題で、活動拠点が必要である。現在は、区の活性化事業を実施して、拠点の家賃に充てているが、今年度でその補助金が切れるので課題となっている。

【自己アピール:稲毛区】

(介護予防の会 輝)

- ◇ 体操の指導を行っている。
- ◇ あんしんケアセンター天台の場所を借りて、認知所カフェを行っている。
- ◇ フラダンスやバンドのメンバーがいるので、地域のイベントを行いた。
- ◇ 栄養士もメンバーにいるので、高齢者向けの食の提案などを行っている
- ◇ 認知症サポーター養成講座や、メモリーウォークに参加する。
- ◇ 「快適ちば」という、地域活動などを紹介するホームページを設置している。

【自己アピール:緑区】

(NPO法人 生活サポートグループ ぱれっと)

- ◇ 20年以上、助け合い活動を行っている。傾聴やゴミ出し、移送についても現在検討中である。

【若葉区】

(たすけあいグループ てくてく)

- ◇ 20年以上前より、活動している。介護保険前は、年間3,000時間以上のケアを提供していた。そのころから、1時間800円で活動をしている。
- ◇ メンバーが高齢化しており、若い人を募集しているが、なかなか集まらない。

(美助っ人クラブ)

- ◇ 若葉区の地域活性化事業をきっかけに、テレタッチ事業を行っている。
- ◇ テレタッチ事業は、介護保険を利用しない、元気な高齢者をターゲットにして、利用者から電話してもらうという事業である。
- ◇ 500円ランチ、パークゴルフ、オレンジカフェなどを行っている。

(よりあい「みつわ」)

- ◇ デーサービスができる前から、お茶飲み会を行っている。デーサービスでできないことも重要である。18年くらいやってきている。
- ◇ 認知症とレットルを張ることも問題である。認知症気味の人はいくさんいる。信頼感があれば、地域で一緒に暮らしていける。

(ワークホームゆうゆう)

- ◇ 障害者にたいするワークホームを行っている。国の制度が変わって、ワークホームが減ってきている。
- ◇ 障害者も、少しの支援で、地域で自立できることがある。少しの支援で助かる人がたくさんいる。

3部 講演 14:50~15:30

「千葉市地域包括ケアについて」

千葉市地域包括ケア推進課 課長 富田 薫氏

【講演質疑】

○10月13日の総合事業説明会の案内は？

→市のホームページで情報を出している。郵送での案内を予定している。

○生活支援コーディネーターが集めた情報はどのように公開するのか？

→集めた情報で、了解を得られたところはインターネット上で公開することとしている。

○住環境では、すべてにエレベーターをつけるとか、できないのか。生活支援コーディネーターに任せるのではなく、自分たちでもっと調査し、もっと頑張らないとだめだ。在宅医療・介護連携についても、主治医になれない開業医も多い。すべての診療所を電子カルテ化するなど、千葉市独自の取り組みが必要だ。年寄りをおだててこき使う、といった施策を進める必要がある。厚生労働省の受け売りではだめだ。総論では駄目である。具体的なことを進める必要がある。

○ケアマネの話を見ると、高齢者だけの話ではなく、同居する家族の問題が大きいと思う。高齢者だけではなく、障害者や子供も含めて、どのように対応するのか考えを聞きたい。

→国も、高齢者だけではなく、子どもや障害者も対象とした新しい地域包括ケアシステムを模索している。高齢者だけでも道半ばではあるが、本質的な課題であると考えている。現場からの提案を期待しているので、何かあれば地域包括ケア推進課に相談してほしい。

☆千葉市ホームページに「在宅医療・介護連携の推進」のページを立ち上げました！☆

↓こちらをクリック

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/hokatsucare/zaitakuiryokaigorenkei.html>